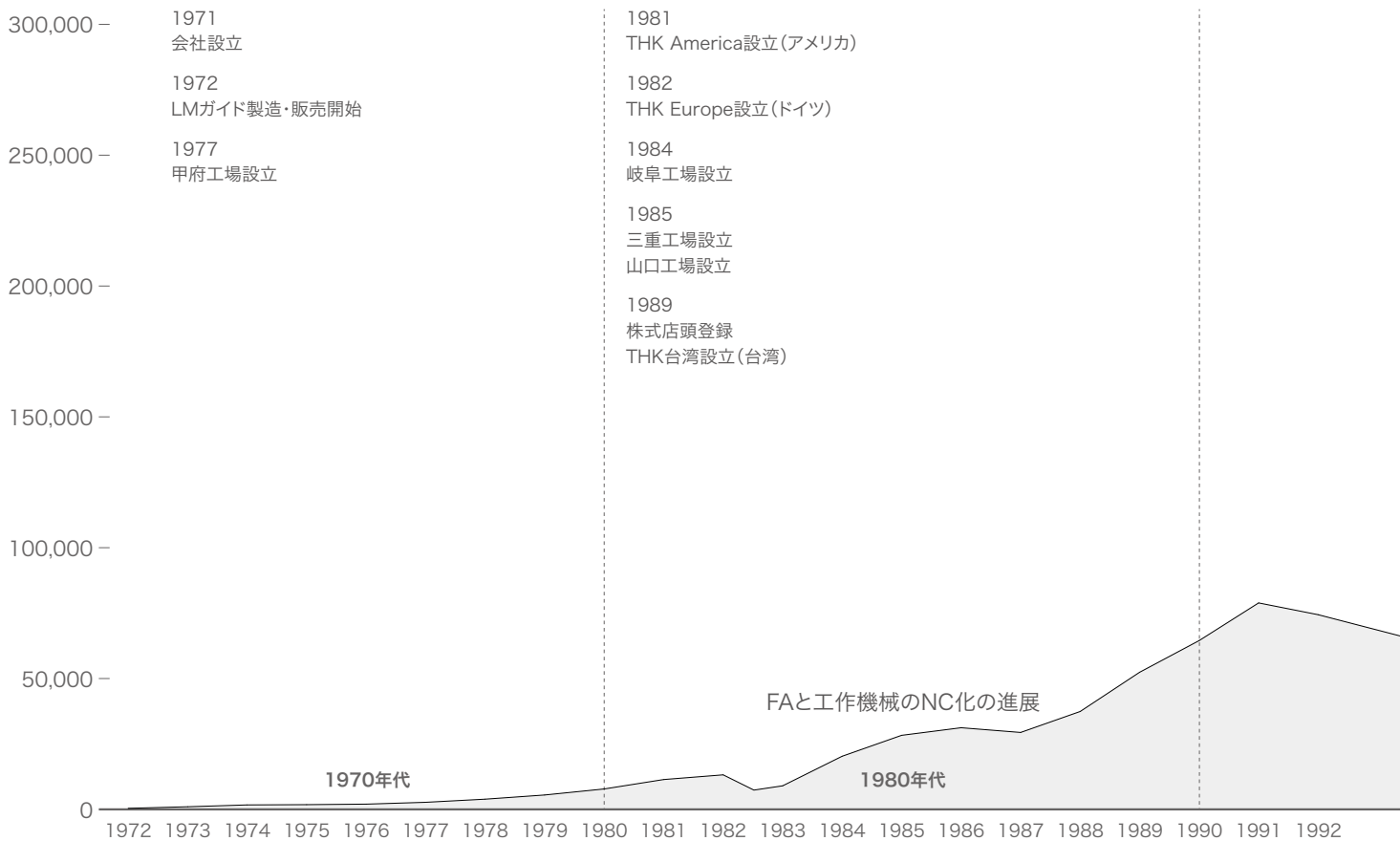


沿革

売上高
(百万円)



1970年代 創業、導入期

当時、機械の回転運動部分の“ころがり”化は回転ベアリングにより実現されていたものの、直線運動部分は“すべり”運動が中心であり、“ころがり”化は困難とされていました。

THKは1971年、精度の高い直線運動を可能にするボールスプラインを開発。1972年にはその発展系であり、現在の主力製品であるLMガイドを開発しました。

1978年にはマシニングセンタの元祖で当時世界トップクラスの米国工作機械メーカーに採用され、それを契機に工作機械へのLMガイドの採用が進んでいきます。

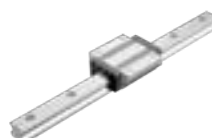


ボールスプライン

THK設立の年に開発され、LMガイドの原点となった製品です。軸に設けられたR形状の溝をボールが転がることで許容荷重が大きくなり、かつトルク伝達が可能となった画期的な製品です。

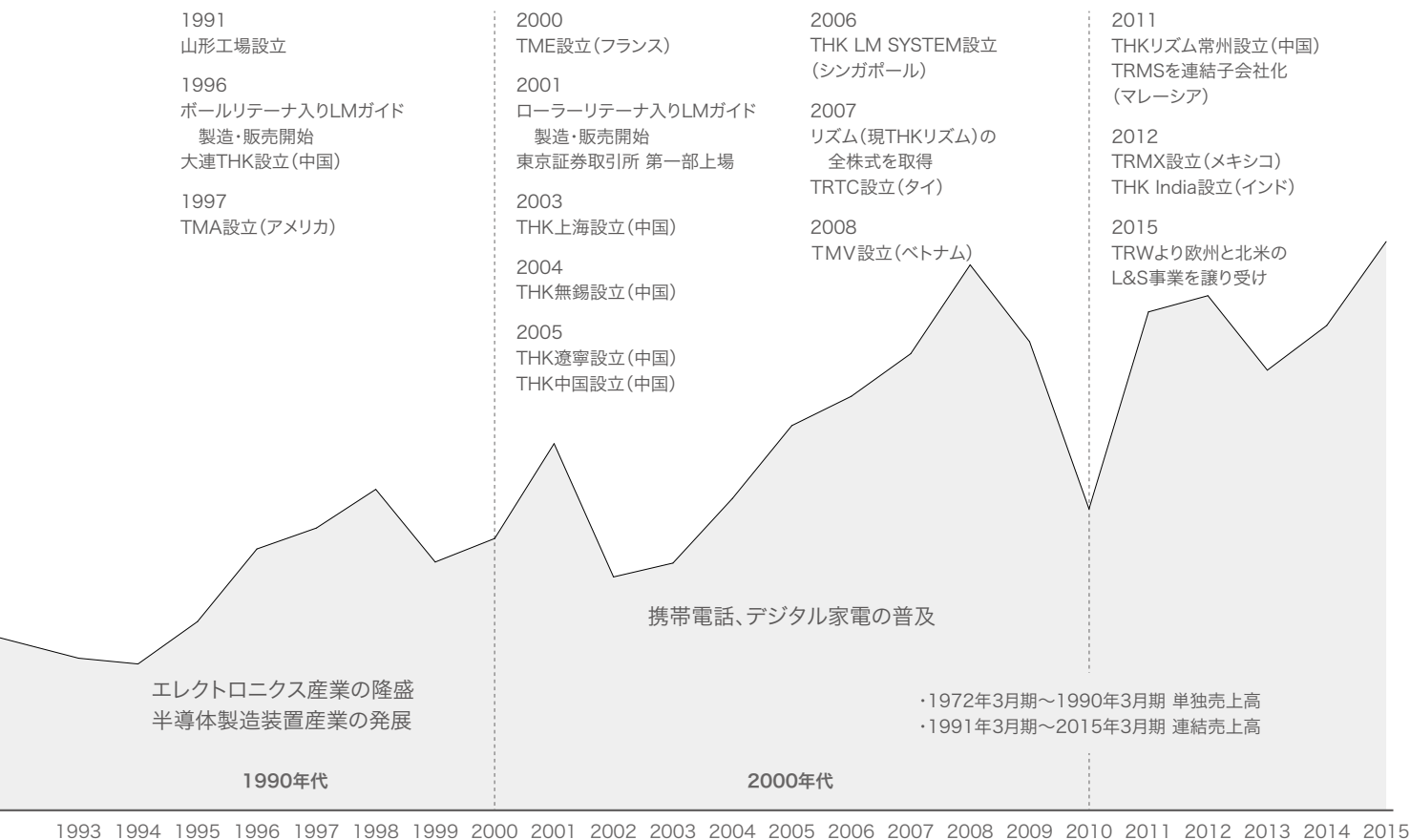
1980年代 FAの進展

オイルショックを契機に重厚長大産業に代わり、自動車や電気製品、半導体産業などの技術集約型産業が発展しました。円安の進行や日本製品の高い品質を背景に、日本は欧米への輸出額を順調に伸ばしました。このような中で高品質な製品を大量に生産することが求められました。生産現場においてはFA(Factory Automation)が進展し、工作機械の生産台数が増加するとともに、NC(数値制御)の付いた高度な工作機械の割合が高まる中で、LMガイドの採用が急増しました。



LMガイド

ボールスプラインの構造を応用して開発された現在の主力製品です。米国の工作機械メーカーに採用されたことを契機に、工作機械での採用が増加しました。



1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015

3月31日に終了した1年間

1990年代以降

エレクトロニクス産業の隆盛

1990年代は、半導体の需要増加に伴い半導体製造装置向けにLMガイドの採用が急増しました。2000年代には、携帯電話やデジタル家電の普及とともに、半導体製造装置、フラットパネルディスプレイ製造装置などの需要が増加する中で、第二世代のLMガイドであるボールリテーナ入りLMガイドを中心とした製品の採用が増加しました。また、モノづくりのグローバル化が進展する中で、THKもグローバルにビジネスを展開していきました。

ボールリテーナ入りLMガイド



第二世代のLMガイドとして開発。ボールを保持するリテーナの採用により、従来のLMガイドに比べて長寿命、低騒音、長期メンテナンスフリーを実現した製品です。

これからの成長

「グローバル展開」と「新規分野への展開」によるビジネス領域の拡大

THKは、2001年には長期経営目標として、連結売上高3,000億円、営業利益率20%、ROA(総資産事業利益率)15%を掲げました。目標の実現に向けて、成長戦略として「グローバル展開」と「新規分野への展開」を推進し、ビジネス領域の拡大を図っています。

「グローバル展開」では、日本、米州、欧州、アジアの4極において、現地で生産して販売するという「需要地における製販一体体制」を構築しています。近年はとりわけ中長期的に需要の拡大が見込まれる中国をはじめとした新興国において、販売網の拡充並びに生産能力の強化を図っています。加えて、先進国においてもユーザーの裾野が広がる中で着実に需要を取り込むべく販売網を拡充しています。

「新規分野への展開」においては、免震・制震装置を主に扱うACE事業部、輸送用機器分野を担当するFAI事業部、生活環境機器分野においても多様な需要が潜在する電動アクチュエータを扱うIMT事業部など専門部署を設置し、消費財に近い分野の開拓に努めています。さらには、医療機器や航空機、再生可能エネルギーなど、THK製品の採用は様々な分野に広がっています。これらに加え、消費財におけるその他の分野の膨大な可能性を顕在化させるべく、これまで培ってきた直動システムのコア技術と蓄積されたノウハウに磨きをかけて、新規分野への展開を加速させています。